

東白川村 美しい村づくり 委員会

第55回

- 場 所：はなのき別館ふれあいホール
- 時 期：令和3年5月26日 19:00~21:00
- 参加者：委員3名 一般3名（役場職員） 行政担当4名
- 新型コロナ対策を実施して開催しました。（マスク、手消毒、体温チェック、常時換気）

委員会の目的等を下記のとおり再確認しました。

- ①住民参加の場
- ②交流・対話の場
- ③学びの場

また、「持続可能な美しい村」を実現するためには、まず「住民と行政で共に学ぶ」ことが重要となります。そこで、委員会の目的等と親和性が高いことから、今回は第1回として「日本で最も美しい村」連合登録資源である「白川茶文化」について「学びの場」と「対話の場」を設けました。

第1 東白川村の新茶を試飲

基本的なお茶の淹れ方を学びながら、5月中旬から出始める新茶を試飲しました。今回試飲した茶葉は「松雪園茶舗」さん。

4つのポイントは、

- ①湯の量は約80cc
- ②茶葉の量は一人分が3g
- ③湯の温度は70℃
- ④抽出時間は60秒

お湯が熱いと渋みや苦味が強調され、ぬるいと旨味や甘味が強調されま

す。お湯を移すたびに 5℃から 10℃下がるので、今回は 90℃のお湯が入っているポットから急須へ移して湯飲みへ、そして茶葉が入った急須に移しました。この作業で約 70℃になります。急須のふたは、空気穴を注ぎ口にあわせます。空気圧で中の茶葉が自然にかき混ぜられ、よく抽出されるためです。60 秒待ち、すばやく廻し注ぎをします。最後の 1 滴まで注ぎきります。今回の参加者は比較的急須離れした世代が多く、正しく丁寧に淹れる大切さを学ぶことができました。なにより、東白川村のお茶の魅力を伝えるには、まず、美味しく淹れることから始まるからです。

第 2 行政事業紹介「茶業振興施策」について

今井企画財政係長から、東白川村茶業の取組みについて紹介していただきました。今井企画財政係長は、前年度まで 6 年間、農務係長として茶業を担当してきました。令和元年 12 月に策定された「東白川村茶産地構造改革計画」の一部を参考資料として、過去から現在の関連数値、加工と流通に関すること、関係者の多様な意見、現在の課題や取組みの成果、専門家からの現評価、東白川村の強みと弱み、などを紹介していただきました。

1 ポイント

- ・1983 年には日本農業賞および天皇杯を受賞するなど産地形成にも努力してきたが、近年、国内の茶消費量の減少を受け、販売量は減少し続けている。
- ・7、8 年くらい前から栽培面積と荒茶生産量は、生産者の減少に伴い急激に減少した。在庫茶がみられるようになるとともに、茶農家の赤字化がさらに生産者減少へとつながる。そして茶の担い手不足という連鎖が起きてきた。
- ・茶の流通や販売の課題は、特徴作りの難しさや需要と供給のバランスがハンドリングできない点が挙げられる。
- ・村の取組みとして、農業の技術共有や農地別に茶葉品質の分別を行ってきており、業者や専門家から高評価を得ている。

・例えば、大門茶の評価も高く、特に商品「ストーリー」が重要である。大門茶は、450年余りさかのぼる。村の茶の起源である蟠龍寺周辺の石垣に自生する在来種で、大門茶保存会により守り継がれている。出来上がった大門茶は、茶の実を持ち帰ったとされる11代住職に献上されている。

・都市部へのPR活動により、専門家や日本のキーマンと出会い、東白川茶を知ってもらい、高評価を直接頂くことは、大変重要である。

・一次産業のボトルネックを解決するのは、6次産業化と一昔前から言われており、当村でも実施されてきた。現在の社会状況から鑑みるに、村の強みは、「とても小さな規模」といえる。東白川村は、多様なニーズに柔軟に応えることが可能なソフトとハードが揃っている。

第3 質疑応答

Q：資料には平成20年からデータが掲載されていますが、この時期は、村の茶産業は自走できていたのでしょうか。（樋口）

A：はい。自走できていました。転換期は平成26年、27年あたりです。（今井企画財政係長）

Q：ロールモデルはありますか。（樋口）

A：産地としてのロールモデルはありませんが、事業者さん単位ではあります。（今井企画財政係長）

O：日本のワイン業界では、栽培・醸造・商品企画販売を一貫しておこなっている有名な方のところへ、若い方が集まっています。特に若い方は、一貫して生産販売するスタイルに魅力を感じているのではないのでしょうか。（樋口）

第4 グループトーク

2つのグループに分かれて、事業紹介から知った事をベースに、「私ができること」を中心にグループトークを行いました。私たちができることは、

一人ひとりが、茶を日常に無理せずに取り入れることや、茶を飲むこと、
愉しむ事で、地域の風土や人の魅力を感じ応援することでした。特に、村
では、白川茶販売促進事業として昨年同様「新茶引換券」「新茶割引券」
を村の世帯へ配布し、さらに今回は1,080円分の新茶2袋を無料で発送
する取組みを追加しました。地道ですが、地域のお茶を愉しみ人に伝える
ことが、私たちが東白川のお茶に対してできることだと、学ぶことができ
ました。

【次 回】 未定





以上